岩崎資料について

岩崎家資料は、高遠藩内藤家に仕えた藩士岩崎家が伝えてきた資料です。岩崎家は江戸時代後期に郷代官や山奉行等の役職を務めており、勤めに関する記録が多岐にわたり遺されています。また、幕末の当主が得意とした数学や、天文学の資料が含まれることも特徴です。

昭和初期の当主であり、熱心に資料整理や研究を行った岩崎三蔵氏は、岩崎家とその資料について、次のように書き記しています。

「私の家には、昔から古記録や帳簿類が長持ちや用箪笥に沢山つまっていた。無論高遠藩に関係した物ばかりだ。それに私の祖父博秋は幕末から明治維新当時が働き盛りで、各方面に活躍した事も聞いているから、いつか閑地を得たら此の資料を整理して研究家の便をはかる様系統立てて置きたい。そうしなければ惜しいものだと考えていた。

私の家は元来士族とは名ばかりで軽輩の仲間だ、豊臣末期の岩崎左門や保科弾正の小姓岩崎十三郎という昔の小学読本に載っていた人達と何かの関係はあるかも知れぬが、民間にいて内藤家へ奉仕し始めたのは宝永五年で手当ては僅か三両二人扶持であった。

徳川中世からの私の先祖は揃って長寿を保ち、三代続いて維新後迄種々の重要事務につき、藩中の生字引と迄云われた程だとの事である。

一　宅右衛門吉忠　安永元年より文政五年迄勤仕　享年七十七

ニ　源蔵（宅右衛門）信懋　寛政二年より嘉永二年迄勤仕　享年七十六

三　覚左衛門博秋（湊）　嘉永二年より廃藩迄　享年七十二

天保大火後、高遠町復興の為め町代官を特設信懋は其重責を果し、博秋は数理測量の奥儀を究め文久三年三十九才にして抜擢され代官となり、洗馬、藤沢、上伊那の三郷の支配を命ぜられ明治三年以後は山林奉行を勤めた。

又特に博秋は筆達者でよく記録を残した。私事日記は養子に来た嘉永二年から明治二十七年まで、五十一年間つけ通した。代官になってからは公務日誌（御用控）と（役向日記）と三通宛て怠りなく書いた。維新の改革成ってからも藩時代の記録を彼是と調べて記録に残した。

旧幕時代といえば大体徳川氏の政策綱領に準拠して藩政も行われた様だが、又各藩独自の行政や慣習があったのだ。高遠藩史研究の資料たるばかりでなく、県下他藩に就ても或程度の研究資料ではあるまいか。（昭和 27 年夏　誌）」

伊那市立高遠町図書館